

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	あいとびあ子ども発達教室“ばる”				公表日	2024年 12月 25日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	15		<ul style="list-style-type: none"> ○必要に応じて、パーティションなどでせまくしたりしている。 ○全員来所、母子同室時は特に狭い場合有り 		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	12	3	<ul style="list-style-type: none"> ○保育士がたりない。せっかく募集に来てくれた人をのがさないでほしい。 ○子どもの特性やグループによっては少ないと感じることもある。 ○職員数が少ない時がある（やりくりしているという印象） 	<ul style="list-style-type: none"> ○特定職務準職員保育士（非常勤保育士）の雇用人数に余裕がなく、休みが取りづらい状況にある。 ○予算上の保育士人数を守ることは当然であるが、時期（グループ開始当初、長期休み明け、新しく利用児童が増えた時等）や児童の特性によって柔軟に人数を調整できるように市の所管部署と相談して実施できるようにしていきたい。 	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	14	1	<ul style="list-style-type: none"> ○生活空間は工夫されていると感じる。事業所の設備について“いいえ” ○広い部屋なので机で区切る等少しでも分りやすくコントロールできるよう工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事業所の設備について、子ども用の便座が座り便器1個、立ち便器1個ずつしかなく、仕切りもないため、児童の年齢に応じた対応に課題がある。 ○待機している保護者の部屋に児童の様子が見られるカメラを設置する等、今後、情報提供の方法を考えていく必要がある。 	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	15		<ul style="list-style-type: none"> ○スタッフが消毒、清掃など念入りにやっているが、施設自体が老きゅう化している。 		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10	5	<ul style="list-style-type: none"> ○パーティションをつかう、トイレで落ちつくなどはできます。 ○落ちつける場がない（廊下 ホール） ○個別の場はないが、必要に応じてパーティションなどで空間をつくることは可能。 ○パーティションや、個別のマットなどを使用 ○いざという時の個別のへやが確保できない場合がある。廊下がクールダウン等 	<ul style="list-style-type: none"> ○個別療育で療育相談室を使用している場合、児童が落ちつける場所が集団療育の部屋（早期療育室）の近くがないことが課題である。 	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	15				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13	2	<ul style="list-style-type: none"> ○機会は設けられている、改善には難しい点もある ○意見を言う機会はあるが、なかなか改善にとりくんでもらえないことが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員からの意見を聞く場があっても、なかなか業務改善につなげられていないことが大きな課題である。 	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	13		<ul style="list-style-type: none"> ○今年度初めて行ったと思う ○把握していません。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度実施した。 	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	13	1	<ul style="list-style-type: none"> ○以前に比べると減っているのか？ ○もっと機会があるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ○外部の研修案内は行っているが、以前のように内部研修を行う機会が少なくなっている。 	
その他	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12	3	<ul style="list-style-type: none"> ○公表はまだできていないのでは ○公表、来年度4月を目指しています。 ○今年度中に取り組み予定 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度中の公表を行う。 	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	15		<ul style="list-style-type: none"> ○現状では感じている 		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	15				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	15				

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	14		○日々の行動観察中心。半年に1回のモニタリング。標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントについては言語療法を用いている子のみ。	○常勤の心理職が1名しかおらず、職員体制に課題がある。 ○標準化されたアセスメントツールを所持していない等予算的にも課題があり、ばるで実施できるアセスメントは限られている。児童発達支援センターとの関係性により、ばるで標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントを実施できるのか、または他の方法があるのか検討を行ってきたい。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	15			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	14			○毎月のスタッフカンファレンスの中で、各グループのリーダー中心に職員と相談しながら考えている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14		○リーダーを中心にスタッフみんなで協力してやっています。	○リーダーを中心に、児童一人一人の課題を考慮しながら、職員同士でアイデアを出しあって実施している。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	15			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	15			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	15			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	15			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11	1	○もう少し子どもを知ってほしい。	○児童のことをよく理解している職員が会議に出られるよう調整していきたい。 ○会議に出席する機会が多い児発管が、個々の児童のことをよく理解し説明できるよう、今後も努力していきたい。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	14			○ケースによって、児童発達支援センターや健康推進課、子ども家庭課、教育支援センター等関係機関と連携して対応を行っている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14		○就学支援シート、支援会議等	○心理職が就学支援シートを作成し、保護者・就学先と支援内容の情報共有を図っている。また、保護者からの求めにより小学校での就学支援会議に職員が参加し、情報共有を行っている。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	(31は、事業所のみ回答)			○連携はあるがスーパーバイズ、助言は?? ○児童発達支援センターとの連携をあまり感	○今年度初めて児童発達支援センターとの人事交流研修を行った。今後も継続して関係性	

	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	9	2	じられない。もっとお互い、行き来できる関係にしたい。	を構築したい。 ○スーパーバイズが受けられるよう、今後機会を設けていきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	13	○通所しているお子さんはだいたい幼稚園や保育園には通っていますが、その程度。 ○併行通所のため、ふだみみなさん保育所や幼稚園に通っている。 ○屋外活動の時、若干の交流はあるかと思えます。	○過去に、周りには療育に通っていることを伏せておきたいという保護者がいたため、積極的に地域交流は行ってこなかったが、現在通所している保護者の意向を伺い、その結果で地域交流については考えていきたい。 ○遠足の時に地域の児童発達支援事業所との交流を行ったことがある（児童同士の交流ではないが）。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	15			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	15			
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	14			○契約時に丁寧に説明を行うよう心掛けている。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	15			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	15			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	15			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	14		○兄弟同志の交流は不明 ○お母さんグループ 有 卒業生ママとの情報交換会 有 ○きょうだい同士の交流の機会はなし。 SORANAの会の合同の保ご者会にスタッフが参加したり、グループの保ご者会は半期に1度はあり ○きょうだい同士で交流する機会はよくわからない。	○きょうだい児への支援は今後の課題であるが、限られたスタッフの中でどのようなことができるのか、検討していきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	15		○すぐに答えられない相談など、その日のうちにスタッフで共有している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	14		○毎月おたよりを出している。 ○かなり細やかだと思います！ ばる通信、日々のメールやりとり等。	○社協のHPやX等は活用までできていないことが課題である。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	15			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	15			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	11	○行事（ばる）がない ○事業所の行事は特にない ○特にないが「たんけん」などで館内をまわり、他部署と交流できるようにしている	○通所児童にとって行事への参加の負担がかなり大きいため（幼稚園、保育園行事への参加で精一杯の状況であるため）、行事を行う予定はないが、今は「たんけん」プログラムであいとびあセンター内の他部署の大人との交流を行っている。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	14	1	○もう少し具体的に、事業所に合ったものを考えるよ。感染症についてあいまい。	○マニュアル類については、職員や保護者に周知するとともに見直しを図ってきたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	14		○訓練はあるが、あいとびあ館内全体での訓練必要。本当に災害の場合は、今のくんれんではどうなるのか分からない。	○毎年、火災と地震の避難訓練を実施しているが、今後、社内やあいとびあセンター内での訓練が実施できるよう、課題として挙げておきたい。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	15			

非常時等の対応	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	14			○アレルギー対応マニュアルに基づき対応を行っている。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11	2	○BCPIについては職員に周知・確認が必要。 (具体的によく分かりません)	○再度周知及び見直しを行っていく。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12	2	○周知はあまりできていないと思う ○よくわからない	○周知及び見直しを行っていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	15			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14			○毎年虐待防止研修を実施している。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	12	1	○そもそも拘束はなし	○身体拘束については虐待防止研修の中で触れているが、別枠での研修実施も考慮する必要がある。